

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌福住(1F桜)	評価実施年月日	平成19年7月1日
評価実施構成員氏名	・渡辺 健吾 ・土門 章子 ・笹木 弘安 ・政永 美由紀		
記録者氏名	渡辺 健吾	記録年月日	平成19年8月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>入居者ご本人の尊厳が保たれる事と、職員としての質を向上する事と地域との関わりを理念に掲げている。</p>		<p>確認評価し、更に良いものを作り上げる。</p>
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>朝礼時に唱和することで、勤務につく前に理念を確認し、フロアに理念を張り出すことで強く意識付けされるようにしている。</p>		<p>日々のサービスに更に反映されるよう取り組む。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>フロアの入口に理念を張り出したりパンフレット等に記載することで浸透を図っている。</p>		<p>面会時や運営推進会議等で伝えていく。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常の散歩やゴミ捨て等で地域の方々と触れ合う機会があるように努めている。</p>		<p>駐車場を利用するなどし、近所の方も参加できるような行事等を設ける。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に参加し交流の場を作っている。可能な行事にも参加できるよう努めている。</p>		<p>町内会以外にも地域活動に参加に努めたい。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>実習生の受け入れを行い地域貢献に努めている。</p>		<p>認知症の相談等を受け入れられる体制を作る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価に対して改善できる点を話し合い取り組んでいる。		結果をふまえてユニット会議で改善に向けた話し合いをし、質の向上等に努める。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見を全体で把握し活かしている。		会議での意見をサービス向上に活かしていく。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所に行く機会を設け、取り組んでいる。		担当者と課題解決を図っていけるよう取り組む。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度を必要とする機械が無く、学ぶことがなかった。		勉強会を開き、理解を深めるようにする。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	暴力以外にも言葉によるもの、精神的な苦痛など色々な虐待がある事を日々話し合い意識を持つようにしている。		勉強会を開き、理解を深めるようにする。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約に際して説明をしっかりと行い理解を得られるよう努めている。		入居後であっても不安や疑問点を気軽に聞き出せるような機会を設ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活への意見や希望等を聞き取るようにしている。聞き取った意見や希望等を会議で話し合い、サービスに繋げるようにしている。		民生委員等に定期的に来てもらい、希望等を聞く場を作っていく。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時やケアプランの説明、ホーム通信で近況を伝えている。		定期以外の報告も多く行えるようにする。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に話をするように努め、又、メールでの対応も行っている。		家族同士で話せる場を設け、意見を反映できるようにする。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から話をする機会が多く設けられている。		意見を聞く機会を多く持っている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度、勤務調整を行って変化に対応している。		スタッフ一人一人がゆとりの持てる勤務体制を作っていく。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職スタッフと入社スタッフがなるべく重なるよう勤務し負担を少なくするよう努めている。		離職を減らす為のスタッフへの取り組み。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内研修を行ったり外部の研修を受ける機会がある。	内外での研修を受ける機会がある。受けた研修を実践に活用していくように努めていく。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	所属する区内で交流する場が設けられている。	社内の同じ立場の者と交流する場がある。同じ立場にあるもの同士で悩みを相談し今後につながるようにしていく。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	日常的に話を聞いたり有休を取れるよう対応する。	個々のストレスの内容を理解し対応する。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	管理者が現場に入り、勤務状況の把握に努めている。	健康状態や疲労について把握する。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	利用前に面談し、要望等を聞けるよう努めている。	本人や家族と面談し、関係作りに努めている。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	これまでの経緯や要望等を利用前に面談し聞く事に努めている。	家族としての要望なども把握する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族の希望や状況を確認し要望に答えられるよう努めている。</p>		<p>要望を把握し他サービスの必要性を検討する。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前の見学等の要望にお応えし安心してもらえるよう努めている。</p>		<p>徐々に馴染めるよう段階的な支援等を行う。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一方的な介護となるのではなく感情を表現しやすいよう努めている。</p>		<p>個性の力を発揮できる場を設け、支え合う関係を築く。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人や周囲の状況を伝え協力して頂けるよう努めている。</p>		<p>職員の思いを伝えていく。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>普段の様子等を家族に伝え、いろいろと理解して頂けるよう努めている。</p>		<p>家族と本人が関わりを持つ場を設ける。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>以前本人が利用していた店等を希望に応じて利用している。</p>		<p>知人・友人に会ったり、手紙等で交流を持てるようにする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが間に入り関わりを持てるようにしている。		利用者同士の支え合う力を引き出す。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等で退去になってもお見舞いに行く等行っている。		他に移られた方々の所への訪問等を行う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を尊重しケアを行うよう心がけている。		本人の視点に立って、把握・検討に努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時やその後の家族との会話で努めている。		本人や家族と話をし把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常の生活リズムや行動等から全体的に把握するよう努めている。		個々の生活リズムや出来る事・出来ない事を把握するよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	会議にて意見を出し合い計画を作成している。		本人や家族の要望をもっと聞き出せるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じて、内容変更等を行っている。		お会いして説明できない家族へ訪問したり、電話等で詳しく説明できるようにしたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録に残し、介護計画の見通しに活かしている。		個別記録や情報を反映させている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や送迎等の支援を必要に応じて行っている。		必要や要望に応じて行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員等と協力し、必要に応じて支援している。		本人の意向や必要に応じて支援している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	意向や必要性に応じて、訪問理美容サービス等利用している。		本人の意向や必要に応じて行っている。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き関係を築いている。		必要性に応じて相談等行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に往診を受け、健康管理を行っている。		往診の看護師や、ホーム内の看護師にて管理を行っている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師の往診を受け、支援を受けている。		往診にて医師の診察を受けている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を確保し健康管理等、支援を受けている。		ホームに看護師を確保している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	往診を受けている病院と連携している。		往診の病院と情報交換を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	担当医師と家族の面談を行い、方針を決めるようにしている。		早い段階から今後について話し合い出来るようにしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の希望・気持ちを大切に担当病院とも連携を図る。		事業所の出来る事・出来ない事を明確にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住替え時は情報交換をしっかりと行いダメージを防ぐよう努めている。		住替え後の訪問等、可能な範囲で行いたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	声掛け等で本人を傷つけないように日々の関わりに努めている。		職場でのスタッフ間の会話等を気をつけたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意向を尊重し納得して頂けるよう支援に努めている。		利用者の希望・関心を把握していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望を優先し支援している。		利用者のペースに添っている希望・関心を把握していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望があれば行けるよう努めている。		その方の希望があればそれに答えられるよう努めている。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	能力に合わせて準備等一緒に行っている。		個々の出来る事を見極め力を活かせるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望に応じて対応している。		希望に応じて対応している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の気持ちを大切にしつつ、パットの使用やトイレの声掛け等行っている。		失禁等してしまった時も本人が傷つかないよう、声掛けや周囲に気付かれないよう対応している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望に合わせて入浴できるよう努めている。		出来るだけ入りたい時間を尊重したい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入床や起床も個々の生活リズム希望に合わせて行っている。		夜間、入眠が浅い方への日中の活動を取り入れる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割を無理のない程度に提供したり、会話・外出等、その方に応じて行っている。		個々の楽しみ事を把握し、もっと行えるようにしたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	高額は所持していないが、少額自己管理で所持している。		買物や喫茶店で支払をする機会をもうける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて散歩・ドライブ等行っている。		希望に応じて外出の支援を行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事として外出したり、個別にも外出したりしている。		遠方への希望があれば計画を立てて行いたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望に応じて行えるよう支援している。		希望に応じて電話をしたりしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特に時間を設けず、いつでも面会できるようにしている。		面会する側からの面会に対する意見を聞く機会を設けたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の業務で身体拘束がないか点検している。		禁止の対象となる具体的な行為の認識を高める。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけず、見守り等で安全面を支援している。		鍵をかけず、見守り等でケアしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	夜勤中は行動を見守り出来る位置で記録を書く等行い、巡回も行っている。		夜勤中の台所に入っている時の、フロアの様子の把握の強化・工夫に努める。
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	本人の状況に応じて対応するようにしている。		ここの危険要因を考え、管理を考えていく。
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	予見できる事に対して防止に努めている(誤嚥の多い方への食事支援等)。		個々の危険を検討し、未然に防ぐよう取り組む。
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	勉強会を行い、対応できるよう努めている。マニュアルを作成している。		実際に発生に当たる事は少ないので、日常からの学習や訓練を定期的に行うようにしたい。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	具体的な取り組み事項が無く今後の検討の必要がある。		定期的な避難訓練を実施する他、運営推進会議等を通して地域の方々への協力や理解を深めていく。
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	行動の抑圧が少ないことによりその人らしい生活が出来るよう努めている。		家族が納得のいくよう、時間をかけしっかりと説明を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	異変の生じた時は連絡を密にし、往診の内科へも連絡する等している。		バイタル以外にも日常の様子を観察し、異変を早く発見できるようにしている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋が見やすい所にあり、用法・容量・作用等理解できる。		薬の用法やその病気についても把握できるようにしている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維のあるものや下剤で調整し、予防に努めている。		身体を動かせられる方には動かす働きかけに取り組む。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	出来る方へは声掛け等、その方に応じて介助等行っている。		個々の能力に合った声掛け・介助を行っている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取のチェック表にて状態を観察している。		ムセこみの多い方でも体調に応じた摂取量を観察し、体調や嚥下能力に応じて形態を対応する。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	情報収集を行い早期の発見・対応に努めている。インフルエンザの予防接種を受けている。		予防策や対応策を学び、対応が徹底されるよう図っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>温度の測定や毎日食材を購入し、新鮮な物を使っている。まな板・布巾は毎日漂白している。</p>		<p>新鮮な食材を使い、衛生・温度管理も行っている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>鍵をかけず、出入りしやすくしている。</p>		<p>近隣の人等の感想・意見を聞けるようにしたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>調理の音や庭の草花等で耳や目で感じられるよう努めている。</p>		<p>静かな曲を流したり、庭の草花等で居心地が良くなるよう工夫している。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファで大人数が過ごせたり、廊下に一人用の椅子を置いたりしている。</p>		<p>ソファや一人用の椅子を配置している。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の好みの物や使い慣れたものを持ち込まれている。</p>		<p>本人の使い慣れたものを使用している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレや周辺に消臭剤を置いている。利用者の様子・状況に応じて換気を行っている。</p>		<p>寒い時は消臭剤等を使用し、臭いに対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置やシンクの高さ等配慮している。		手すりの設置、段差のない作り等安全に配慮している。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人の能力・状況に応じて支援している。		能力・状況に応じて環境整備を行う。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたりして楽しんで頂いている。		ベンチを置いて涼んだり、外気に触れるようにしている。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

その方の意思や希望を尊重し、それぞれの生活スタイルを大切にしている。